

日本への架け橋

・ 専門家が語る日本の教育制度と語学学習・

丹羽 筆人 Niwa Fudehito

米日教育交流協議会代表。在外子女の日本語教育と帰国生大学・高校・中学入試のサポートを行なう。他にデトロイト補習授業校講師。



◆米日教育交流協議会

電話：1-248-346-3818 サイト：www.ujeec.org

vol.05 日本語だけではなく日本文化の習得も必要

12年目を迎えた米日教育交流協議会主催の日本語と日本文化体験学習プログラム「サマーキャンプin ぎふ」の、第1期と第2期が無事に終了しました。12年間の総参加者数は237人。うちわけは、男子が118人、女子が119人。小学生が88人、中学生が127人、高校生が22人。また、アメリカからの参加者は約80%の195人で、カリフォルニア州が77人と最も多く約40%です。次いでニューヨーク州が18人、ワシントン州が15人、ニュージャージー州とテキサス州が各10人で、その他幅広い州から参加しています。また、アメリカ以外の国や地域では、カナダ、メキシコ、イギリス、アイルランド、ベルギー、トルコ、中国、香港、台湾、タイ、シンガポール、ナミビアから参加しました。また、日本にあるインターナショナルスクールやアメリカンスクールの生徒の参加もありました。この多くはアメリカの出

身で、父親の転勤のため日本に在住しています。

また、参加者の多くは母親のみが日本人という子どもですが、父親のみが日本人、両親ともに日本人という子どももいます。いずれも英語など現地の言語が第1言語で日本語が第2言語という子どもですが、最近では両親ともに日本人ではなく、日本での在住経験もなく、現地の学校で日本語を学習している子どももいます。

サマーキャンプの参加者状況から見てくるのは、幅広い地域に日本人の血を引く子どもたちが在住していることです。そして、そのような子どもたちが、海外に暮らし、日本での生活の可能性が高くないにもかかわらず、日本語を学習しているということです。まだ、子どもたちは、現地の言語と日本語との複数言語を使えることのメリットをあまり感じていないかもしれませんが、将来はきっと役に立つことでしょう。

ただし、日本語が使えるだけでは日本の社会では通用しません。日本の文化や社会での礼儀作法を理解する必要があります。サマーキャンプでは、実施中のあいさつの励行や食事の際のマナー、目上の人に接する際の態度なども指導しています。



▲日本語と日本文化を習得して活躍してほしい